医療法人惇慧会
外旭川病院だより
2021年6月
第5号

●理事長あいさつ　●医師の紹介　●部署の紹介（放射線科）　●感染管理認定看護師の役割

理事長あいさつ

医療法人 惇慧会（じゅんけいかい）　理事長
穂積（ほづみ）　恒（ひさし）

コロナ禍で揺れた令和２年度が終わり新しく令和３年度が始まりました。今年度は、コロナを押さえ込み、通常の日常生活が戻ってくることを心より祈念いたします。

さて昨年度はコロナの影響で特に外旭川サテライトクリニック（SOSAC）は４月から７月の外来患者さんが減少し、大きな影響を受けましたが、８月以降は秋田市内の感染状況が徐々に収まってきたことに伴い、患者数も一昨年度と同等程度まで回復して来ています。特に昨年１１月から発熱外来を開設して徹底的な予防体制を整備し、通常の診療状況に戻ってまいりました。

外旭川病院では面会謝絶などの厳重な予防対策を取った効果でコロナ感染者を一人も出すことなく、療養病棟ホスピス病棟共に一昨年度を上回る入院患者さんを受け入れることが出来ました。今後も入院外来とも一人の感染者も出さないことを目標にコロナ撲滅に尽力していきたいと思っています。

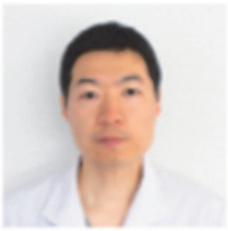
今年度は昨年度の小谷野博正先生に続き、市立秋田総合病院の呼吸器科に勤務されていた須藤和久先生を新しく常勤医として迎えることができました。呼吸器科の専門医としての経験を活かして引き続きコロナ対策に尽力していただくとともに、療養病棟全体の医療の質の向上に貢献していただけるものと期待しております。

外旭川地区は、３月１３日にＪＲ泉外旭川駅が開業し、また近い将来には卸売市場の改築やＪ２ブラウブリッツの新スタジアム建設などが予定されており、今後ますます発展していくことが期待されている地域です。

私たちも明るい希望を持って地域と共に発展していきたいと願っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

医師の紹介





外旭川病院 医師

小谷野（こやの） 博正（ひろまさ）

- 日本皮膚科学会
- 日本形成外科学会 形成外科専門医
- 日本褥瘡学会

2020年4月より勤務させていただいており、早1年になります。入職してだいぶ経ちましたが、この機会に改めてあいさつさせていただきます。

２病棟（療養病棟）にて、主治医として患者さんを診させていただいています。慢性患者さんに、安心して質の高い生活を送っていただけるように、また家族の方も含め、満足度の高い療養生活が送れるように努めています。各病棟で活気と明るさがあり、看護と介護の連携、多職種とのコミュニケーションがスムーズ、迅速に行われており、よりよい医療提供できる環境が整っていると感じます。

院内で、皮膚科診察、褥瘡委員会活動も行わせていただいております。長期臥床している患者様、栄養状態、免疫力の低下している患者様は皮膚トラブルおこりやすいため、適宜、診察しております。治療の一翼を担えれば幸いです。

現在、コロナウイルス感染症で、感染対策のため、患者様家族にも面会制限のお願いをしている状況です。ご家族の皆様に大変な不自由をおかけして、心苦しく、もっと面会できるようにと思います。しかし一方で、コロナウイルス感染症が院内感染として発生した場合、重症化しやすい患者様が多くいらっしゃることを考えると、一定の面会制限はやむを得ないものとも思います。患者様家族にも面会制限の中でのより充実した時間を過ごせるよう配慮していくとともに、院内外において感染予防対策を順守していくことが大切なのかと考えます。

多難な時期ですが、患者様やご家族に安心安全な医療とより良い入院環境を提供できるよう、一員として勤めていきたいと思います。

面会制限のお知らせ



新型コロナウイルスの感染症対策のため
面会制限を実施しています。
ご理解とご協力をお願いいたします。

外旭川病院　院長



部署の紹介　放射線科

診療技術部　放射線科

主任　畠山（はたけやま）　弘大（こうだい）

放射線科は、診療放射線技師２名が在籍し、医師の指示の下、放射線を使った撮影業務の他に放射線機器の管理や撮影した画像のデータ管理を行っています。当院で使用している撮影装置は、一般撮影装置、ポータブル撮影装置、CT撮影装置の３種類です。

一般撮影装置は主に外来や歩行、車いすを使用している入院患者さんを対象に１階の撮影室にて検査を行う装置です。

ポータブル撮影装置は、１階への移動が困難な患者さんに対し、病室まで放射線発生装置を持って行きその場で検査を行います。当院の特色としてポータブル撮影が一番使用割合の多い検査となっています。

ポータブル撮影装置



CT（Computed Tomography）撮影装置のCTは日本語でコンピュータ断層像を意味し、エックス線を使い身体の断面を撮影する装置です。体内の断層を撮影することで病巣の発見や変化を知ることができます。

撮影装置以外には、PACS（Picture Archiving and Communication Systems)の画像データ管理も当科で行っています。ひと昔前までは、撮影した画像はフィルムにより管理していましたが、PACSを導入したことによりパソコン上で画像をデータとして管理し、各病棟に設置された端末モニターですぐに画像の確認ができるようになりました。PACSを採用したことで医師からのオーダー・撮影・診断の流れがスムーズになり、より迅速な診断ができるようになりました。

PACS



撮影業務や管理業務の他にも昨年より放射線安全管理業務にも力を入れています。院内に放射線安全管理員会を設置し全職員を対象とした放射線安全関連の研修の実施や年に１度、放射線検査の被ばく量が適正かの検証も行っています。令和２年度は、当院で実施した検査数値と国の定める検査数値のガイドラインを比較し、すべての検査でガイドライン以下の被ばく量で検査を実施していることが証明されました。

放射線科では、これからも安全で安心な検査の実施を心掛け、放射線検査が患者さんにとって有益なものとなるように業務を行ってまいります。

感染管理認定看護師の役割

感染管理認定看護師　水澤（みずさわ）　肇（はじめ）

2017年、感染管理認定看護師の資格を取得いたしました。感染管理認定看護師の役割は、すべての医療関連施設を利用される患者・家族・訪問者はもちろん、現場で働くすべての人を感染源から守ることです。その役割を担うためには、幅広い感染管理に関する知識と、病院内での様々な職種の方と協働できる能力が求められます。

皆様もご存じのとおり、微生物は目には見えませんし、微生物も変化し続けています。それゆえに、感染対策はこれで良し！ということはありません。現場の働き方、それぞれに適した感染対策を提案し、改善し続けなければ、使える感染対策にはなりません。誰でも当たり前のようにできる、続けられる、それが理想の感染対策と考えます。

そのためには職種や立場の違う仲間の意見を聞き、現場を観察し、それぞれに適した感染対策を提案できるスキルを磨くことと、新しい情報を得るために自身のアンテナを高くする必要があります。感染対策は、誰か一人が知識を持っていてもできません。施設の中のみんなが知識を持ち一人一人が進んで行う、これが理想です。その理想のために私は、職員の皆様、地域の皆様に少しでも感染対策に興味を持っていただけるよう活動しております。



医療法人惇慧会
外旭川病院

〒010-0802 秋田市外旭川字三後田142
TEL 018-868-5511　FAX 018-868-5577
《Web》https://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/
《Mail》sotohp_kouhou@jkk-sotohp.or.jp

■病床数241床（療養病棟 207床、緩和ケア病棟 34床）
■診療科目/内科、皮膚科、リハビリテーション科

